

共生

奈良県生協連

2010年7月

NO.77

万葉のいぶきを求めて—(42)



夢のわだ 象の小川の落ちるところ

わが行きは ^{ひさ}久にはあらし ^{いめ}夢のわだ 瀬にはならずて 淵にあらぬかも
大 ^{おお}伴 ^{とも}旅 ^{たび}人 ^と

「夢のわだ」は、吉野山の^{きさだに}喜佐谷をチョロチョロと流れてくる「象の小川」が吉野川に落ち込んでいる大きな岩に囲まれた深い淵のところといわれ、「わだ」は水が入り込んで湾曲したところとされています。

この歌は、大伴旅人が^{だざいのそち}太宰帥となって筑紫に下るときに詠んだ歌といわれます。「私の赴任は、そんなに長いことではないだろう。夢のわだよ、それまで浅瀬に変わったりせずに淵のままでいてくれよ。旅立つ前に訪れた吉野は旅人の心に強く焼きついたのでしょう。」

旅人に限らず、天平時代の知識人たちにとって、吉野はまさに神仙境と感じられていたようです。今日でも、深い^{やまなみ}山脈の下を静かに流れてきた小川が、突如として滝のようにほとぼしり出る様は、自然の造形の妙、不思議な力を感じさせずにはおきません。吉野というところは、大宮人でなくとも、今日の私たちをも捕らえて離さない不思議な所です。

おかげさまで20年!

奈良県生協連が創立されて今年で20周年を迎えました。設立当時に県連の礎を築くためにご尽力いただいたお二人の方に当時のエピソードを語っていただきました。

◆ 奈良県生協連創立前夜のエピソード

奈良県生活協同組合連合会会長 瀧川 潔
(初代県連専務理事)

創立前夜というのだいぶ前になりますが、ならコープの商品部(共同購入部)長をしていた80年前後に、大学生協の出身ということもあって、大学生協との連携を考えてはどうかということになりました。当時2つだった奈良教育大と奈良女子大の大学生協と連絡会を立ち上げ、牛乳などの供給を始めました。

その後、90年の組織部長だった頃に、当時は県連があるところには日本生協連の会費から還元の形で活動費がでていたので、これを活用しない手はないということもあって、奈良県にも県連を作ってはということになりました。

連絡会の土台もあったので、県内活動生協は、あと労済生協とおやさと生協だけでしたが、この2生協に足を運んで、連合会の結成と加入を呼びかけました。ちょっと性格が違う生協ということで、戸惑いもあったようですが、なんとか無事に「県内活動全生協による県連の創立」が実現しました。全国では後ろから3番目で、「ブービー賞」にだけはならないように、というのが合言葉でした。「ともかく、なかよくしよう」というのが大目標で、設立後は会合の後は交流し、他県連へ研修旅行にも出かけ、活動費が有意義に使われました。



◆ 「協同たすけあい」の運動を蓄積する歴史

市民生活協同組合ならコープ理事長 森 宏之
(初代県連事務局長)

奈良県生協連のこれまでの20年の歴史は、保守的といわれてきた奈良県の各地に、「協同たすけあい」の運動を蓄積する歴史だったと思います。

『神は些事に宿る』との喩話のとおり、『全体』はたくさんの小さな部分が集まってできていますが、一つひとつの小さな部分がきちんと働いていなければ全体は『完成』には至りません。会員生協と連合会、協同組合連絡協議会もそうした関係にあると思います。

私が事務局長をしていた設立3年目となる1993年1月に、県下3つの協同組合組織が結集して「奈良県協同組合連絡協議会」を発足させることができました。この会は、かつて日本協同組合学会の会長をお勤めになり、奈良女子大学で教鞭をとられていた武内哲夫先生(残念ながら鬼籍の人となられた)が立役者として尽力され、その発足を誰よりもお喜びになられたことが、昨日のように思い出されます。

その後、奈良県生協連にとっては県生協大会と並ぶ最大の社会アピールの場となり、以降は毎年7月の国際協同組合デーにちなんで開催することになる『協同組合デーのつどい(所謂“七夕の出会い”)]での協同組合関係者の交流と実践に引き継がれ、“吉野の森と水を守る運動”など今日の協同組合間提携に結実していますが、歴史を飾る画期的な取り組みであったと申せましょう。

コープワールドを奈良の地に展開していくことを夢見ています。その力強い芽吹きも感じる今日、この頃です。



故 武内哲夫先生

第21期 奈良県生協連通常総会 開催

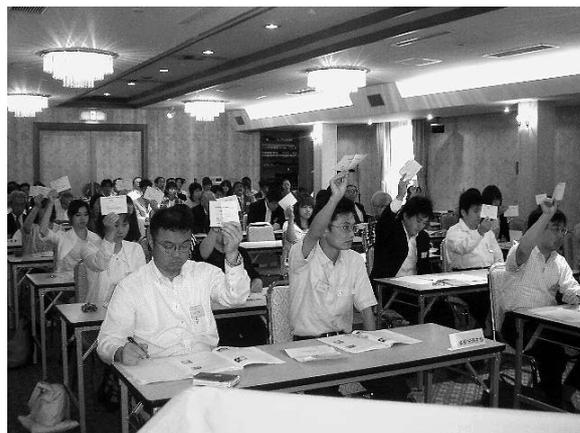
6月19日猿沢荘(奈良市)において第21期奈良県生活協同組合連合会通常総会を開催しました。ご来賓・関係者・オブザーバー含め約90名が出席し、提案議案についてはすべて承認されました。



奈良県消費・生活安全課
山菅善宣課長



奈良県森林組合連合会
山本陽一会長



ご来賓を代表して 奈良県消費・生活安全課課長 山菅善宣様、奈良県森林組合連合会会長 山本陽一様よりご挨拶を賜りました。その他、ご臨席いただきました方々は、奈良県消費・生活安全課係長 三浦克利様、奈良県地域婦人団体連絡協議会会長 中島祐子様、日本生活協同組合連合会関西地連事務局長 金子隆之様、県消費生活センター所長 大前利隆様、奈良YMCA国際生涯学習事業部部长 渡辺新久様、消費者支援機構関西事務局長 西島秀向様です。また、全国の生協連合会及び単協、友誼団体より、多数のメッセージをいただきました。心よりお礼申し上げます。

ならコープ野村由佳代議員を議長に選出し、定刻通り議事に入りました。今年度は、パワーポイントを活用した提案や活動報告が行われ、創立20周年に当り、育てていただいた地域社会に感謝し地域に生協運動を一層広げる2010年度活動方針や役員(理事)選任議案など、第1号議案から第5号議案まで一括提案されました。その後、各会員生協から活動報告が行われ、採決の結果、全議案が満場一致で可決承認されました。最後に、大阪樟蔭女子大学の太佛智恵さんが読み上げた総会アピールが確認され総会を終了しました。

役職	氏名	所属
会長	瀧川 潔	員外(市民生活協同組合ならコープ)
副会長	三輪 敏通	奈良県労働者共済生活協同組合
専務理事	仲宗根迪子	市民生活協同組合ならコープ
理事	芝田 考一	奈良工業高等専門学校生活協同組合
	竹内 繁	奈良女子大学生生活協同組合
	立石 昭彦	生活クラブ生活協同組合
	辻 由子	市民生活協同組合ならコープ
	長門 裕明	奈良県立大学生生活協同組合
	前田 陽一	生活協同組合コープ自然派奈良
	森 宏之	市民生活協同組合ならコープ
	柳澤 克哉	大阪樟蔭女子大学生生活協同組合
	山下 正純	奈良教育大学生生活協同組合

監事は2年任期で、改選期ではありません

総会アピール



大阪樟蔭女子大学
太佛智恵さん

新任理事



長門裕明さん
奈良県立大学生協理事



今期で退任されます
崎濱誠(奈良県立大生協)さんに仲宗根専務理事から花束が贈呈されました。

奈良県生協連總會 各会員生協活動報告

*奈良県労働者共済生協

永山俊樹さん

「みんなでたすけあい豊かで安心できる社会づくり」という理念に基づいて活動してきました。

組合員のたすけあいという理念のもと、組合員本位の運営で活動してきました。昨年10月の台風18号で被災された方へ速やかな対応をしました。

2011年、奈良労働者共済協は50周年を迎えます。防災に関するイベントや保障に関するイベントを開催していく予定です。



*大阪樟蔭女子大学生協

嶋本愛さん

5月組合員が応募したオムライスコンテストを行い、上位3位を秋以降限定販売しました。6月は食生活相談会、10月若樟祭では「貧困問題から見た国際平和」というテーマで展示ブースを設け、発展途上国の貧困問題の背景や現状を学びユニセフの紹介、貧困問題を調べてまとめた手作りの本などで、私たちにできることを伝えました。12月には放課後の学校を盛り上げようと「クリスマスパーティ」を開催。ミニコンサートやゲーム、豪華な食事などを用意しました。3、4月には新入生の不安解消のためのサポートとして「新人さんいらっしゃい」で受講登録相談会を開催。123人の新入生が参加し、新入生の緊張のほぐれた顔を見ることができました。



*奈良工業高等専門学校生協

魚谷果那さん(右)
和田京子さん(左)

4月新入生歓迎会、7月かき氷企画、11月文化祭出店、自転車点検、12月食生活相談会、2月ケーキ喫茶を開催しました。かき氷企画への参加者が少ないと感じたので、その体験をもとに6年前に失敗だったというケーキ喫茶を企画するにあたり、様々な点を改善してみました。宣伝を大々的にし、ケーキの数量限定をアピールしました。店の名前をイタリア語の「アモレ」にし、ケーキのネーミングや飲み物、低価格にもこだわりました。その結果、予定の10倍の方に来てもらえました。今後もいろいろなことにチャレンジして組合員に喜んでもらおうと思います。



*奈良教育大生協

三浦友紀さん

30年ぶりに店舗を改装し、食堂の拡張、購買・書籍の一体化ができました。食堂閉鎖中は弁当を作って販売し、購買は学生ホールで仮営業しました。7月は生協祭りを開催し、教職員や留学生も参加しました。組合員カードをIC化した『なつきょんcoopカード』を作りました。1月にははじめて大学実習園の協力でもちつき大会を行い、留学生も参加しました。京滋・奈良地域センターのピースナウ、共済セミナー、組合員活動セミナーに積極的に参加しました。ひとことカードの回収・管理、機関誌「KIRIN」の発行、共済給付ボード作成、食生活相談会を行いました。大学祭では「eco・coop・peace」としてピースナウの展示と牛乳パックで作る紙すきを子ども達と行いました。



*奈良県立大学生協

長門裕明さん

今日は学生会主催の大運動会が行われているので、学生委員の代わりに報告します。学生600名の小さい生協ですが、1～2年中心に30～40名が学生委員のため、学内でも大きな地位を占めています。オープンキャンパスでも活躍し、学園祭で学生委員会が出店し、その売上げの半分をアフガニスタンの子ども支援をしているNPOに寄付しました。ピースナウ舞鶴で見つけたことを報告書にまとめ配布しました。利用が増え、初めて売上げが4000万円になりました。生協は県立大で必要とされる存在です。



新入生歓迎企画は「受験宿泊何でも相談会」と入学手続き時に「お料理講習会」「さくらハイク」「履修登録何でも相談会」を行いました。みんなで料理を作りながら新入生同士が仲良くなったり、ならまち散策やゲームなどで先輩と仲良くなることをめざしています。理事会に11の企画提案をしました。

*奈良女子大学生協

奥村上結衣さん、守田幸さん、宇田仁美さん

学生委員会「ウインディ」では七夕祭にはテーマやメニューもネーミングにこだわり、ウインディ全員で甚平を着て夏らしさを出すなど工夫をしました。オープンキャンパスでは都道府県ごとにメッセージ展示し受験生に見てもらいました。学生委員会が手書きで作成した「奈良女にFit's」と「奈良てくテクmap」を新入生に配布しました。2月は受験宿泊相談会として下見案内やホテルでの相談会、入試当日は保護者控え室を生協が用意し、アドバイスをしました。新入生向けに開催した「エントランスイブ」では新入生の9割の500人が参加し共済や生協の案内をしました。



*コープ自然派奈良

福田幸子さん

昨年度は事業連合の第1次中期計画の初年度であり、コープ自然派奈良は第2次中期計画の初年度でした。

「命・自然・くらしを大切にし、笑顔いっぱいの安心して暮らせる社会をつくり、未来の橋渡しとなる生協をめざします」という方針で活動しています。組合員は増加しましたが、事業は厳しい状態です。生駒に新しい地区ができ、組合員活動は活発でした。食農体験を通じて生産者と関係を築き、組合員活動から奈良で産直米ができました。親子で田植えをしたあと榎原昆虫館の先生をお招きして生き物調査をしました。「奈良のお米プロジェクト」をつくり商品化に向け、ひみこ米のパッケージデザインを公募し65通の応募がありました。「本当においしいお米」について学習会を行い食・農・環境のつながりを考え大切に活動していきたいと思っています。



*生活クラブ生協

甲斐京子さん

理事会・地区も少しずつ自らが考えて活動が始められるようになってきました。6つの地区で構成され、生産者訪問や試食会を組合員自ら考え行動することができました。地区委員から1人ずつ出て3つの委員会（消費・産直・環境）も担当しました。年度末には10の産地から生産者に出向いていただき、産直集会を開き食べ続けることの意味を改めて考えさせられました。全国のせっけん派が加入する『協同組合石けん運動連絡会』に加入しました。今年は9月から広報検討委員会が発足し広報紙を次年度に向けて準備していきます。韓国の幸福生協から9名の訪問を受け交流し、両国の違いを学ぶ機会となりました。センターでの年4回朝市で仲間作り消費財の利用普及につなげていきたいと思っています。今年度は『これからの生活クラブ生協づくりにもとめるもの』というテーマでシンポジウムを開催する予定です。



*ならコープ

渡辺早苗さん

地域ですすめるコープネット活動は6,867人の参加、「つどい」にはならコープの商品政策や食品添加物基準をテーマに3,010人が参加しました。サークルは610登録。店舗協議会は地域とのつながりをめざして開かれています。食事バランスガイドを使った食生活提案を行いました。アースデーでは900人参加、2トラック2台分のゴミが回収されました。環境記念講演会には130人が参加し、気候変動の国際会議COP15には組合員を派遣し温暖化問題について学びました。17環境団体に助成をし、行政の環境キャンペーンに参加しました。平和分野ではピースイベントに150人が参加、NPT再検討会議に組合員と職員を派遣し、職場でも学習に取り組みました。たすけあいの会20周年、あすなら苑10周年、視覚障害者の方向けの商品案内書のCD化、各種災害緊急募金に取り組みました。今年度はあすなら苑がつくる保育園づくりを応援します。



** 総会終了後 つどい開催 **

山下理事の司会で、なごやかに行われました。

最初に瀧川会長から第1回理事会の報告があり、奈良県地域婦人団体連絡協議会会長 中島祐子様、日本生協連関西地連事務局 金子隆之様、消費者支援機構関西事務局 西島秀向様からご祝辞をいただき会員交流を行いました。





「食の安心・安全」 方針から条例制定へ

近年、食に関わる事件・事故が相次ぎ、それに伴い法律や制度を改正・制定されて来ました。2003年食品安全基本法の制定をきっかけに食の安全にかかわる行政の取り組みも大きく変わりました。

	食に関わる主な出来事	法律・制度などの改正、制定	地方自治体の条例制定
1996年	堺市でO-157食中毒事件		
1999年 H.11		JAS法改正（食品表示の充実強化）	
2000年 H.12	雪印低脂肪乳 食中毒事件		
2001年 H.13	国内初のBSE牛の確認	遺伝子組換え食品の審査・表示制度開始 アレルギー表示施行	
2002年 H.14	雪印食品牛肉偽装事件・牛肉・鶏肉の偽装多発・中国産ハウレンソウに残留農薬 輸入停止・不許可添加物(香料)使用食品の一斉回収、無登録農薬使用発覚	牛海綿状脳症(BSE)対策特別措置法 包括的な輸入・販売を禁止する制度導入 JAS法改正(罰則強化)・農薬取締法改正	
2003年 H.15	米国でBSE牛発見。米国・カナダ産牛肉の輸入禁止措置実施	食品安全基本法制定・食品衛生法改正 食品安全委員会発足・牛トレーサビリティ法施行	岐阜
2004年 H.16	山口・京都で高原性鳥インフルエンザ発生	消費者基本法施行	宮城・秋田・群馬・ 埼玉・東京都
2005年 H.17	米国・カナダ産牛肉輸入再開	家畜伝染病予防法一部改正	京都府・北海道・新潟・ 徳島・高知・熊本・大分
2006年 H.18	再輸入禁止（特定危険部位混入発覚） 再々輸入解除	残留農薬ポジティブリスト制度施行	兵庫・栃木・千葉・岡山
2007年 H.19	大手洋菓子メーカー、老舗和菓子メーカー、地鶏、老舗料亭で食品偽装、牛ミンチ偽装事件、消費期限不正表記	業者間取引における原材料表示の導入	大阪府・沖縄、名古屋市
2008年 H.20	中国産冷凍餃子食中毒事件 三河一色産ウナギ、飛騨牛などで食品偽装・輸入事故米不正転、中国で牛乳・乳製品にメラミン混入、中国産インゲンにジクロロポス混入	加工食品の原料原産地表示の推奨	三重・岐阜改正・大阪府改正・山口・愛媛・ 宇都宮市
2009年 H.21	タケノコ、ウナギ、カニなどの産地偽装	JAS法改正(産地偽装に対する直罰化) 消費者庁設置	滋賀・茨城・神奈川・ 徳島改正・愛媛改正
2010年 H.22	宮崎で口蹄疫感染拡大	口蹄疫対策特別措置法	京都市 (計画中 岩手、鹿児島)

地方自治体では基本方針や食品衛生法にもとづく食品衛生監視指導計画を策定し監視指導を強めています。

一方、条例制定によって、基本理念や施策の方向を定める動きは岐阜県の「岐阜県食品安全基本条例」制定に始まりました。しかし、その後も偽装事件や輸入食品などを中心とした安全性への消費者の不安などは抜本的な解決には至っていません。

「立入調査」「措置勧告」権限、「公表の実施」を規定している自治体や東京都・京都府・兵庫県のように、罰則規定を置いている自治体もあります。また、事業者の自主回収時に自治体への報告を義務付ける「自主回収の報告制度」を条例で位置づけている自治体もあります。「食育推進」「遺伝子組換え作物栽培に関する措置」「健康被害の拡大防止のための情報の公表」その他、「食品輸入事務所の届出制度」の規定がある自治体もあり、消費県か生産県かなどによって様々です。

大阪樟蔭女子大学関屋キャンパス生協に おじゃましました

今年から大阪のキャンパスにも事業が広がり、名前も『大阪樟蔭女子大学生協』となります。
総会の取材に行ってきました。

大阪樟蔭女子大学関屋キャンパス生協 総会

日時：5月28日(金) 18:00～20:00

場所：大阪樟蔭女子大学関屋キャンパス 生協食堂

議題：2009年度事業報告・決算報告、2010年度事業計画および
予算、定款の一部変更、諸規定の改定・廃止・新設、共済連合
会への加入、2010年度役員改選、議案決議効力発生の特



川上理事長のあいさつ

「生協は食堂と購買事業だけではなく、みんなで大学の生活をよくしていこうと考えることが生協です。」

柳澤理事からの提案説明



「大阪の小阪キャンパスにも生協をつくりまします。」

休憩後 グループ討議

生活行動班、購買班、食堂班のグループに分かれ先生も学生と一緒に話し合います。



本人出席34書面出席597総会成立
全議案賛成多数で可決

グループ発表 ①生活行動班 ②購買班 ③食堂班から発表

食堂の開店時間を延ばしてほしい。レジが混雑するので増やしてほしい。洋食やスープ類を増やしてほしい。トイレが冷たい！コンビニを作してほしい！？坂道がきついで何とかしてほしい！…いろいろ出ました。

理事会から：トイレや施設の改善は学校にみんなで声を届けたら変わるはず。生協でできることはしていきたい。営業時間の延長は学生のみならずが大学に残って利用すれば変わる可能性があります。生協を開けておく意味がある様になりたい。考える場をつくりたいので、呼びかけに応えてほしい。

～「みんなの喜ぶ顔が見たいから」～

川上理事長にインタビュー

「大学にいたいと思えるような『場』をつくりたい。『学生が好きだから』と話すのは、今期で理事長を退任される川上理事長。みんながお互いを思いやる言葉が印象的でした。「生協」っていいですね。」

先輩の影響は大きいと3回生の委員長・嶋本愛さん。みんなが笑顔で帰っていくのがうれしいと、笑顔で答えてくれました。



今年卒業し、今は保育士の北川優貴さん。「先輩から誘われたんです。人と人とのつながりが楽しかったし苦しいことも乗り越えられた」と語る。今日は後輩に「たい焼き」を差し入れ。

2回生の原夏海さん(右)と坂本幸さん(左)「たいへんなことも多いけど来てくれた人が喜んでくれるのが楽しい」と話してくれました。

ピースアクション 世界平和のために

～核不拡散条約(NPT)再検討会議からみえてきたもの～

毎年恒例のピースアクションinならが6月5日、奈良市登大路の中小企業会館大ホールで開催され、120人の参加がありました。

初めに5月にニューヨークで開催された核不拡散条約(NPT)再検討会議にならこーぷから代表派遣された堀江陽子さん、楠本慎一郎さん、玉置紀子さんの報告(右ページ参照)があり、引き続いてジャーナリストで世界を飛び回っている伊藤千尋さんの講演がありました。



伊藤さんは3名のNPT報告を受けて、

- ①オバマ大統領の登場とそれを生み出したアメリカの動きについて、個人が社会を動かした事例
- ②アメリカ本土からもフィリピンからもカリブ海からも基地が消えつつあり、世界は変わりつつあること
- ③コスタリカの平和憲法と平和教育、欧州連合の大きな連帯の意味、ドイツと日本の違い
- ④世界に散らばる憲法9条と憲法を活かした政策や楽しむ活動

などの紹介がありました。



そして何より個々人の好奇心や疑問を解決させていく中で大きな運動になり世論になっていくこととお話になりました。

参加者アンケートから「元気の出る話しで感動しました」「宿題をいただいた様な気がします」「九条も日本だけのものではないという言葉に驚き」「広範な情報の中で、判断していくことが大事」「伊藤さんの講演をまた聞きたい」などの声が寄せられ、原爆パネルや地雷の展示を興味深く見て回られていました。

2010年核不拡散条約再検討会議で合意した文書要約 (5/3～5/28於ニューヨーク)

以下の4項目について将来に向けた具体的行動計画を含む最終文書の合意

- ☆ **核軍縮** ・「核兵器のない世界」の実現という目標と政策を追求する
・核兵器国は核軍縮の進捗を2014年の再検討会議準備委員会に報告 他
- ☆ **核不拡散** ・ IAEAの抜さうち査察を可能にする追加議定書の未締約国に対し、早期締結を奨励
・北朝鮮に対し、2005年6者共同声明の義務履行を強く求める
- ☆ **原子力の平和利用**
・ IAEAの活動に追加拠出を奨励
・原子力の保障措置、安全と核セキュリティへの約束と実施の確保
- ☆ **中東決議** ・中東の全ての国が参加する中東非大量破壊兵器地帯設置に関する国際会議の2012年開催を支持

また「核兵器禁止条約」に言及したことも今後を方向づけることになりました

私たちができること？ in なら2010

核兵器は人類とは共存できない！

「核兵器のない世界へむけて」ニューヨークでの

要請・アピール活動に参加してきました。(派遣者の報告から)

被爆者の方たちは、被爆証言の中で、あるいは様々な集まりでの挨拶の中で、そしてちょっとした会話の中で「自分たちのような経験、悲惨な苦しみは他の誰にも起こってはいけない」「核兵器はいかなる場合であっても使ってはならない兵器」「核兵器は人類とは共存できない」ということを繰り返し強調されました。訪問した高校の生徒たちはもちろん、国連本部ロビーで開かれた原爆展を見に来ていた人たちも多くは広島、長崎に原爆が投下されたことは知っていても、投下されたことによって人間、街、文化、歴史にどのような惨状がもたらされたのかはほとんど知らないようでした。ニューヨークの地で被爆者自身が直接その非人道性を語る機会を得、多くの人にその悲惨さを伝える事は大事な地道な活動であることを強く感じました。そして被爆者の方たちを中心にして私たち平和を願う多くの人たちが手を結び、小さな行動を積み重ね、声をだしていくことが核廃絶を実現する力になるということ実感しました。(堀江陽子さん)



被爆者のかたも、共通して、こうおっしゃっていました。「責めるためにアメリカへ来ているのではない。戦争が悪だけ。核兵器は現在の問題だから、次使えばもっと大変なことになるから、無くしたい。一緒に頑張りましょう。」と。実際にお二人のお話は、想像を絶する辛い体験なのに、伝えたいのは体験よりも、「もう二度と起こってはいかない」という決意のように感じました。

せっかく生協という、一般市民へ発信できる組織にいるのだから、より多くの方へ原爆のこと、被爆者のことを発信していかなくてはいけないと思いました。生協として、被爆者の方々の力になれるのは、そういう市民とのつながりではないかと思いました。(玉置紀子さん)



今回の活動を通じて学んだことはたくさんありましたが、印象深かったのはペース大学での広島大学教授の言葉に次のようなものがありました。「広島原爆資料館には長崎のもの一つもないんです。日本で広島長崎を訴えることはたくさんありますが、チェルノブイリなど他の国の被爆者のことを訴えることはほとんどありません。本当に広い意味で、被爆者や戦争で被害を受けたかた、9.11の遺族の方、全員で共有し語り合っ癒しあうことが重要なのです」と。私は今まで日本という国の中で平和を考えていました。しかしそれだけではなく、もっともっと広い視野で平和や安心ということをつかえて、今後の活動に活かしていきたい。また生協という枠だけにとらわれず横のつながりをフルに活用して今後も平和活動に力を尽くしたいと思いました。(楠本慎一郎さん)



学校での被爆証言

広がる協同・くらしの輪

□アースデー2010 in 奈良

4月24日(土) 奈良県流域下水道センター 自由広場において、21回目のアースデー企画が開催されました。天候が不安定の中、約700人が参加。これまでで最高となる32団体が出展し、体験し楽しみながら環境について考える場となりました。また、「大和川クリーン作戦」では、ごみ収集量は2トントラック1台分となりました。奈良県生協連会員生協からは、奈良県立大学生協・大阪樟蔭女子大学生協から参加し、リターナブルビン使用ジュースの販売や牛乳パック工作など、子どもたちとも会話しながらの体験コーナーとなりました。



□第1回食の安全懇談会

5月24日(日)に第1回食の安全懇談会を開催しました。コープ自然派奈良、生活クラブ生協、ならコープ、県消費・生活安全課職員、奈良県生協連など27名が参加しました。奈良県農業水産振興課環境係の森本勝司係長から「奈良県の農産物の安全確保の取り組みについて」、大阪府生協連の安本正男常務理事から「大阪府食の安心・安全推進条例の取り組みについて」の報告後、質疑応答と意見交換を行いました。



□御所市消費者問題学習会で出前講座しました

御所市地域婦人団体連絡協議会主催の学習会を奈良の消費者行政を考える会が後援し、出前講座しました。6月1日御所市アゼリアホールに80人を超える参加があり、考える会代表の北條弁護士の講演と、こむらいふ奈良の寸劇クイズ、奈良県相談員連絡会会長の坂本氏の解説コメントで、大変わかりやすく消費者被害に合わないための対策を考える場となりました。



□あすなら保育園をつくる会に賛同します

今年度方針に「県内の福祉充実のために医療・子育て分野の活動を支援します」と謳っています。ならコープが設立した社会福祉法人協同福祉会は来年3月にあすなら保育園の設立をめざして建設運動をすすめています。「子どもは社会の宝」をモットーに「生きる力を育む」「子ども・親・職員がともに育ちあう」「働きながらの子育て、家庭での子育てを応援する」保育園を目指しています。奈良県生協連はこの運動に賛同します。



□ 「市町村消費者行政活性化計画進捗調査」を行いました

奈良の消費者行政を考える会では国の地方消費者行政活性化支援策の進捗を調査し、県消費・生活安全課と懇談をしました。回答は21市町村からありましたが、活性化基金を活用し相談窓口の充実を図ったところが17市町村ありました。ただ予算そのものが減額された所が2市町、活性化計画の未利用が9市町村あり、活性化予算そのものが使い切れていません。消費者被害が高額化、高度化する中で市町村の対応の格差に若干の懸念が残ります。



□ 「吉野の森と水を守る募金」の贈呈式が行われました

JAならけん、奈良県森林組合連合会、ならコープの3つの協同組合が協同で吉野の森と水を守る活動をすすめています。

市民生活協同組合ならコープでは、地産地消をすすめる取り組みの一環として、奈良県農業協同組合（JAならけん）と連携し、環境資源保護と米づくりのための水源確保を目的に、「吉野の森と水を守る募金」に昨年11月から取り組んできました。地産地消の商品である「奈良県産ひのひかり」



1キロの利用につき1円を、ならコープとJAならけんが協同して拠出し、奈良県森林組合連合会に贈呈され、ヒノヒカリを育む吉野の水源を守るため、吉野の森を育てる活動に使用されます。3月28日に募金の活用として吉野山にシロヤマザクラやケヤキなど広葉樹160本が植樹されました。

4月30日に「吉野の森と水を守る募金」の贈呈式が行われました。

奈良県生協連 2010年度第1回理事会報告

6月19日 猿沢荘

[主な審議事項]

第1号議案 理事会の構成に関する件

会長・副会長・専務理事の互選について、以下の通り承認されました。

会長 瀧川 潔
副会長 三輪 敏通
専務理事 仲宗根 迪子

第2号議案 代表理事、選定の件

代表理事に瀧川潔会長、仲宗根専務理事が選定されました。

第3号議案 その他日程等について

会員生協の総(代)会が 開催されました

- 5/27 奈良教育大学生協
- 5/27 奈良工業高等専門学校生協
- 5/27 奈良県立大学生協
- 5/28 奈良女子大学生協
- 5/28 大阪樟蔭女子大学関屋
キャンパス生協
- 6/11 ならコープ
- 6/14 生活クラブ生協
- 6/24 コープ自然派奈良
- (7/30 奈良労済生協 予定)

県連日誌

4月

- 3日 防災カフェ in なら
(奈良労済生協)
- 6日 日本生協連関西地連地区別
代議員会議
- 13日 つながり祭実行委員会
関西地連運営委員会
- 17日 CO₂ 25%削減を考える学習
会(CASA 主催)
NPT 代表派遣壮行会
- 21日 県安全安心住まいまちづく
り協議会
- 24日 アースデー 2010

5月

- 7日 協同組合連絡協議会事務局
会議
- 12日 監事監査
- 14日 県連創立 20 周年記念企画会議
- 16日 奈良の食文化研究会総会
- 20日 奈良県生協連第7回理事会
- 21日 ピースアクションすすめる会
- 24日 第1回食の安全懇談会
県連地域生協組合員活動交
流会実行委員会
- 25日 関西地連 NPT 報告会
- 30日 日本生協連医療部会との懇談

6月

- 1日 奈良の消費者行政を考える会と御
所市地婦連：消費者問題学習会
- 2日 県もてなしの心推進県民会議
- 5日 ピースアクション2010 in なら
- 8日 近畿農政局消費者団体との意
見交換会
奈良財務事務所シンポジウム
- 10日 奈良の消費者行政を考える会と
県消費生活安全課との懇談会
- 18日 日本生協連総会
- 19日 奈良県生協連総会
- 26日 JA ならけん総代会
KC's 総会

お知らせ

県からのご案内



省エネ住宅関連助成制度のお知らせ

新築住宅 = エコポイント + 県産材活用 + 地域認証材補助 (最大715,000円)

リフォーム住宅 = エコポイント + 景観配慮・耐震改修 (+市町村補助) (最大103万円)

期間 22年4月22日～23年1月20日
(補助によっては戸数制限があります)



詳しくは **奈良県住宅課** 0742-27-7540

編集後記

○県連21期通常総会が終了し、いよいよ20年の諸準備に入ります。古い写真を見ながら確実に20年の年齢を重ねていますが、変わらないのは毎年総会で発言する学生たちの若さ！これは奈良県連のエネルギーの元ですね。そういえば最近の総会での会員生協の報告は女性が多いですね！これも世相の反映でしょうか？(迪)

○環境省主催の「温暖化対策に関する国民対話集会」に参加して来ました。梅田スカイビルで夕方の6時から開催。こんな時間に来られる人はもちろん背広の男性ばかり。「25%削減なんて本当にするつもりか？排出量取引制度は国際競争力を落す」など意見が出されました。COP15の議論で、先進国の大幅削減は避けられないことを見てきた私にとっては不満ばかり。技術力のある日本こそ再生可能エネルギーを駆使して経済と環境の両立をめざしたい。こんな国民もいるのです。(順)

○本棚から1冊の本を取り出しました。「沢内村奮戦記」。前日に「日本の青い空 いのちの山河」を見て感動しました。「医療とは住民が健康で長生きするための活動」「医療費無料は憲法違反にはなりません」「命を守るためには：地域包括保健医療体制が必要」…この間の医療生協懇談やピースアクション講演に通じるものを感じました。(和)